

勝見名跡誌

四上

			二九二八	和書門
		二九二八		
八	七	四	八	
冊	架	函	號	類

庫	文	閣	内	
七		二九二八		和書
五				
函				
八				
架	冊	號	類	

内一〇九九四
地

内閣文庫	
番號	和 29288
冊數	8 (4)
函號	175 123

共八

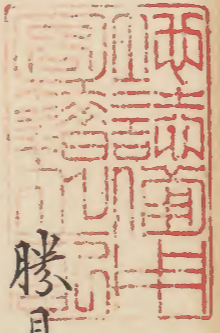




Faint, illegible text impressions on the left page, possibly bleed-through from the reverse side.

勝見久治志
上四

三ノリ
廿五
授
少
後



勝見名跡誌卷之四

目錄

坂木郷 五ヶ村

勝島大明神

片山村 旧云土居片山

樹恋山正壽寺

高村

本木村

下坂本村



内一〇九九四號

梅翁山大泉寺

下光本庄 六ヶ村

廣木村

塚手村

西分村

馬場村

戸島村

下光本村

母本保 五ヶ村

併録

高州郡末恒保

常松村

富吉村

奥沢見村

板井大明神

母木村

新所村

母木川

求橋

一求菴跡

八幡宮

宮吉城跡

馬場田

古川跡

雲谷山大龍院

兩國梶之助墓

母木坂

中之坂

大崎古城跡

氣多高草郡境

末恒保

天神山

沢見池

杖衝坂

内海村

白兔大明神

高尾山

不増不減池

金崎

臥野村

三倉村

酒津村

樽谷

観音堂

湊山 赤島

鶺鴒島

疊島

夷島

中将島

高島々

前島

觀音島

往生島

灣島

中将墓

龜宮

夷社

大巖

松影山

烏帽子島

勝見名跡誌卷之四目錄畢

勝見名跡誌卷之四

坂本郷 五ヶ村

宿村 村高五百十三石余



ヨリ 十三町下ニアリ宿村ハ坂本郷五

ヶ村ノ内ナリ 五ヶ村トハ 宿村 片山村

重高村 二本木村 下坂本村 是ナリ

按ニ気多一郡ヲ半ズニシテ 山東山西ト云フ

鷲峰ヲ標凖ニシテ山ノ東西ヲ去ルモノ也然ラ

ハ大坂谷坂本谷ト云ルモ鷲峰ノ山ニ付テノ

名ナルヘシ山西ノ名ヲ通りテ鷲峰ニ山上ス

ルヲ大坂トイヒ山東ノ谷ハ山下ノ麻野神社
ニ参詣スル道ナレハ坂本谷ト云ルニハアラ
スヤ

勝島大明神

宿村ニアリ社地山地二百五十間四方森有リ
社領高十六石四斗五升折紙水帳下礼アリ神
樂所二間ニ三間茅葺鐘樓二間半四方板葺其
前外ハ幡 稻荷 荒神 幸神右五社共ニ勝
島ノ末社外ニ荒神一社ハ勝宿ノ末社ニノ飯
田攝津カ支配

按ニ民談ニ曰志加奴ハ麻野ナルヘシ此所之
社ヲ今ハ勝島大明神トイフト云リ上ニ是アヤ
マリ也志加奴神社ハ鷲峯ノ社ナリ民談ハ末
再治之草本ナル故ニ此等之差誤多クアリ因
幡国社考ハ民談ヨリ後之撰述ナリ国社考曰
志加奴神社一坐者因幡国五十坐内気多郡五
坐内神也或謂之鷲峯神上委ク上ニ社考ノ全
文ヲ出スカ如シニ書共ニ同人ノ著述ナレハ
前之民談ニ志加奴神社ハ宿村之勝島ト書レ
タルハ誤マリト思ハレズンハ後ノ社考ニ鷲

峰ノ神社 トハ書レマシキ筈ナリ然レハ勝
島ノ志加奴神社ト書レタルハ誤リニハ未定
シクレ共此神社之境内上ニ書タル間敷之コ
トシ辺土ニテ是程ノ境内ト云モノ昔之大社
タル旧迹ナラスンハ今新クニ寄附スルコト
有ヘカラス其上宿村ヨリ外ニ処々ノ末社数
多アリ何レノ神ヲ祝ヒ祭リタルトハ知サレ
トモ孰レノ道ニモ往古之大社タルニ相極マ
リタリ麻野町ヨリ程近クハ当社ヲ志加奴
神社ニテ有ヘシト書レシコト誤マリハ誤マ

リト自ラモ思ハレナンズレ氏サリトテ然ア
ルマシキ誤マリトハ更ニ思ハレスイカニト
イフニ鷲峰ヲ志加奴神社ニシテ見タル時ハ
麻野町トハ余程遠ケレハ此所ニ麻野之名ヲ
付ルハ諺ニ天井ヨリ目菜ヲ指ト云カ如シモ
トヨリ高ク大ナル山ナレハ鷲峯ノ禁トイヘ
ハ然ラズ共イハレズ然ハ此アタリニノミ限
ルヘカラス何レモ近キ辺ハ麻野ト云ヘキ義
ナルヘシ上ニモ僻案ヲ書タルカ如ク其所ニ
麻野神社ナクテハ此アタリ麻野トハ云ル筈

ナリ海道筋ニテイヘハ箱根三島其外稻荷西
宮ナト何国ニテモ神社ノ近キ辺ノ村名ヲ称
スル也此近所ニ麻野神社ナクテハ麻野所ニ
名ハ有マシキ筈ナレハ勝島ノ麻野神社ト書
レシハ誤マリテ誤マリニハ有サルモノ也鷲峰ヲ志
加奴神社ト見テハ鷲峰ノ外院ハ宿村ニテ遠
ク山ヲ離レテ有ヘカラス外院ニ神社アリシ
ナレハ今ノ権現岩ニ所ナラン 権現岩ニ決定
スレハアタリノ總名ハ麻野ニテ所モ名モ麻
野所タルヘシ

志加奴神社ハ勝島ニ有サルコト上ニ述ルカ
如クナリ然ラハ何ノ神ヲ祝ヒ祭リタルト云
ニニ何ノ證據ハナケレバ推量ヲ以テ云トキ
ハ同郡之大社一社ハ勝宿トイヒ一社ハ勝
島トイフ勝ノ字ヲ互用スレハ御神縁ニ由契
之子細モヤ有ケン歟麻野所ニモ十社アリ神
社ニ二社ハ勝島ノ末社八社ハ勝宿ノ末社又
宿村之内ニモ六社ノ中ニ五社ハ勝島一社ハ
勝宿之末社ト是ハ何レノ一方ヘカタツキ
テ有ヘキニ入マシリテ兩社ノ祠宮^宮之支配ス

ルモ神縁ニ別社ナラサル由来アリテ昔ヨリ
此旧例之今ニ廢セサルモノニハアルマシク
ト有ニ勝嶋之社司ニ尋タラハ何トソ神之名
ヲ云テ其神ヲ祭レルト云ナルヘシ乱世ノ以
後ノ寺社ニハ後人ノ附會率合多クアルハ一
概ニモ信シ難シ勝宿ト云テ出現尊ヲ祭レル
ナラハ勝島ハ雲海龍尊主ニ豊玉姫 塩土老翁
ナト合セ祭レルノ類ナラシカ猶タツメヘシ
片山村 村高三百五十三石余
宿村ヨリ七町下ニアリ今ハ此村名ナシ昔之

国繪圖ニ片山トアリ今ハ片山ヲ土居村ト云
リ

樹憲山正壽寺

土居村ニアリ曹洞宗母木村雲谷山大龍院末
寺開基年代シレス開山梅翁山地寺内三十九
間ニ十六間半御年貢地山林アリ
村中ニ 三王 稻荷 若宮 幸神 荒神
五社勝島之末社
重高村 村高二百十石余
土居村ヨリ七町許下ニアリ

村中ニ 王宮大明神 若宮 荒神 荒神

幸神 右五社勝島ノ末社

二本木村 村高四百四十二石余

重高村ヨリ一町ホト下ニアリ

村中ニ 妙見 荒神 若宮 右三社勝島之

末社

石原カ因幡故事偏ニ日気多郡坂本卿二本木

村ト土居村之間ニアタツテ毎夜野外ニモユ

ル火アリ昔ヨリ此所ニモユルト云リ予モ時

ニ此火ヲ見ル然レ共毎夜モユルト云コトヲ

シラス此谷村ニワカレ散テ爰カシコニアレ

ハ疑フラクハ葉尽孤村見夜燈之類ナルヘシ

或云シカラス月ノ明ナル夜ハナシ其外ハ夜

毎ニモユル曉ニ至テヤム毎夜モユルヲ見サ

ルトイヘルハ心ヲトメテ見サル故カ必ス人

家ノ火ニアラスサテ其火ノ在所ヲ問ニ誰ア

リテサタカニ起ル所ヲ見スユル者ナシアタ

リヲ往来スルトキハ見ヘス過ユキテ後ヲカ

エリミレハアリトイフ又道ノホトリニ古塚

アリ此中ヨリ燃出ル火ナリ近ク望メハナシ

遠ク望ノハアリト云ル又諺ニ昔此辺ノ里ニ
富有之者一人アリ亀井雲州ヨリ当郡ニ流落
シテオリノハ其家ニ来リ給フ然ルニ主人
ナサケトク會釈アルニヨリ日比憎シトヲホ
ス心アリ後ニ気多一郡之領主ト成クマヒテ
彼者ヲ頸ヲ刎ラル其灵魂山地ニノコリテ嗔
恙之余リニモユル火ナリト云傳ヘタルト云
リ上トシルセリ按ニ如此ノ野火ハ世上ニ多
クアリ当国ニモ法美郡法華寺ノ燒墓ハ昔ヨ
リ今ニアリマノアタリ郡中ニ夏ヲイヘハ湯

村ノ長泉寺ノ下ニ夜毎ニモユル雨之夜ニ深
更ニ見タル者多シ鬼火ト思ヒテ近ク寄サル
者ノミ也近ク寄テミレハ其所ニハ見ヘス木
梨村ノ青木ノ下ニモユル其所ニ往テ見レハ
梶懸村ノ方ニ見ユル又其方ニ往テミレハ小
谷村ノ濱村ノ方ノ山ノ出鼻ニテ燃ルトイフ
人之足音ヲ聞テ人ヲ避ルヲ思ヘハ^{ホウキ}燐火ニテ
モ有ンカ是ハ狐ノ口氣ヲ吐ヌレハ夜中ニ光
アリテ名ケテ燐火トイフ又土中ノ陰火ノ夜
中ニ升登シテ火ニ燃ルカ如クニ光ニ見ユル

モアリ摺島翁馬ト云ル浪士ハ以前荒尾志广
ノ祐筆ヲ勤テ居レリ其私宅鑄物所之下屋敷
ニアリ私宅ノ屋後ヨリ景福寺ノ墓所生垣ヲ
阻テ間チカク見ユル或時新喪之壙中ヨリ夜
毎ニ火モユル家並ノ傍輩ニ翁馬ト一処ニテ
見タリ家初ニハ妻子トモ見テ怖タレトモ毎
夜之ヲナレハ後ニハ何トモ思ハス慰ミテ
シテ見物シタリトノ咄ナリ其人ハ一色忠五
郎ト云タル也陰中ノ気火ノ壙中ヨリ光ヲ生
スルヲ見テハ亡者ノ嗔火ト云コト京田舎

共ニ同意ニ坂本谷ニ燃ル火モソレト同モノ
ニ何ヲ年久シキ亡人ノ嗔火ノ今時マテ飄散
セシテ燃ルコトノ有ンヤモトヨリ人死シ
テ胸ノ炎ノ土中ニテ燃ルト云コト有ヘカラ
ス然レトモ生前ニ怒リ多キ人ノ死セル壙中
ヨリ陰火ノ鑽火ノ如ク光ヲ生スレハ亡者之
執心之火ト名ヲ付ラル、サレハ生前ノ慎ミ
ハ有ヘキコトニ亀井殿ハ極メテ不仁ノ行跡
多キ人也上人ノ頭ヲ刎ラレタル嗔火ノ燃ル
ニハ有サレトモ兼テムコキ亀井殿ナレハ云

傳フルニ相違ニテ旧悪ヲ報シテ不幸之人
ヲ殺サレシナルヘシ此悪行アル故ニ野火ノ
燃ルヲ見テモ殺シレタル者ノ嗔火ナリト年
久シキヲ今ノ世マテ云ヤマサルハ亀井ノ
不徳ノ報応ニテ永ク此真名ヲ末代ニ傳フル
ニ武野燭談卷廿七ニ曰明智始細川幽斎ノ臣
ニ幽斎ノ家老米田助右エ門ト悪クアタリ
ケレハ明智コラヘス信長ニ敵シ遂ニ丹波一
国五十万石ハカリ近江ニテ十万石ヲ所領ス
明智常ニ云ク全ク米田カ蔭ナリト故ニ山斎

ヲ塔トストソ上トシルセリ明智カ器量ニク
ラフレハ亀井ハ卑賤ノ者ニ讐ヲ報スルハ実
ニ小人ノフルマヒ寛仁大度ノ人ニアラス宜
ナルカナ末代マテ悪名ニ当国ノ人ノ人口ニ
膾炙スルコト

下坂本村 村高千三百四十三石余

二本木村ヨリ五六町下ニアリ

村中ニ 武大明神 稻荷 若宮 八幡

若宮 荒神 大將軍 若宮 荒神 若宮

若宮 荒神 森山大明神 荒神 若宮

松原大明神 荒神 右十七社 勝島ノ末社
按ニ十七社ノ中ノ武大明神トハ何レノ神ナ
ルカ知カクシ他国之神道者ニ聞ヒクテハ武
素戔嗚尊ニテ有ヘシト云ンカ國中処々ニ
多クアリ武大明神ト云ルモアリ武王大明神
ト云ルモアリ是ヲ儒学者ニ聞セテハ周ノ
武王ヲ祭リタルカト云ン又モウ大明神ト云
テ文字シレヌモ多クアリコレ何レモ轉音ノ
訛マリニテ一神ノ名ト見ヘタリ当国ノ一宮
ハ武内宿禰ヲ祭ルノ由ハ大和国一宮記ニモ

アリ上ニ述ルカ如シ武内宿禰ヲ諸書ノ中ニ
光孝天皇ノ御末ト記ルシタレトモ国ノ国
造伊福部ノ家ノ旧記ニハ大己貴命ノ十五世之
神孫ト記ルセリ天下公共ノ史録ノ説ニシタ
カハス一家ノ兔園冊ニ書タル説ヲ用ユルコ
ト他之指笑モ有ヘケレトモ此記文ハ延暦三
年伊福部巨富成カ書タル真蹟ニシテ少モ其
ウタカヒナキ実録ニテタシカニ證據トスヘ
キ系譜ナリ其中ニ自国常立尊以降迄素戔嗚
尊者披閱国史可知故降以大己貴神为始祖ニ

ト書タリ是ヨリ御子孫代々相統シテ当国ヲ
離レ給ハサルコト後世ノ国司ト称スル如キ
モノカ武内宿祢ハ大己貴命ヨリ第十五世ト
シルセリ此時始テ無縁ノ国ニ下リ給フニハ
非ス御先祖ヨリ奕世受領シ給フ国ナレハ三
韓御道^ミ治ノ以後ニ当国ニ御幡ヲ因タマフ是
ヨリ因幡国ト文字ヲ書改ムト貝原カ八幡本
紀ニハシルシヌソレヨリ以前ニハ稻葉之國
トイエリ武内之御子孫モ先代ニ相替リナク
第二十世若子臣ノ時ニ始テ国造ノ号ヲカウ

フリ是ヲ国造ノ初祖トス故ニ若子臣ヲ祭リ
テ一宮之攝社トシテ今ニ存ス大己貴命ノ当
国ニ下リ気多カ崎ニ到リマセシトハ旧事記
古事記ニ所載ナレハ其マキレトシ気多カ崎
ハ今ニ鷲峯ノ山ノ旧名也 此山之尾ノ末ハ
三里モツ、キ北ニ海之端マテ出タルハ其所
ヲ今モ大崎トイフ上古ヨリ以テ鷲ノ峯ト呼
テ其山ニ大己貴命ヲ祭り奉ルニ上古艸昧之
世ヲ潤キ人民ヲ安堵セシメ其所ヲ名ケテ稻
葉ノ国ト称シタマフモ萬世之嘉稱ナルヲメ

後ニ気多カ峰ヨリ法美郡亀金山ニ遷坐シタ
マフカ此夏ハ大成経ニアリ天下公共ノ神書
ニハ有サレトモ今ニ此所ノ里諺ニ言傳フレハ
必ス捨ヘシトモ云ヘカラス今ニ中郷村ノ内
ニ八上姫之屋敷跡ト云ル所アリ又白兔大明
神之神社アリ里老ノ咄ニ白兔ヲ誤マリテ小
早トイフトイヘリ又是ヨリ西ノ方ノ田之中
立川村之勝尔ノ内ニ稻葉殿ト称スル社アリ
是ハ八上姫ヲ祝ヒ祭ル昔ハ亀金山ヲ上之社
トイヒ稻葉殿ヲ下ノ社ト呼テ国之大社ニテ

アリシトイフ今ニ稻葉殿ハ倉^{ウカノミクマ}稻魂ノ神ヲ祭
ルトイフ稻葉ノ社号ニ因テ倉稻魂ト云タル
ナラン亀金山ノ山下ヨリ此アタリマテハ稻
葉郷ナレハ稻葉殿トハ云タルナラン後ニ大
己貴命ハ当国ヨリ出雲ノ杵築ニ跡ヲ垂タマ
フ此神縁アリテノ謂レニヤ因幡ノ国造ト出
雲ノ国造トハ親戚之如クニ睦マシク云カハ
ヒケレハ乱世當国ノ国造ノ其所ヲ退立ラレ
シ時モ出雲ノ国造ノ方ニ往テ寄宿シ居タリ
ト云傳フルモ名ノ如キ因縁アリシニ因テノ

事カ其昔因幡国ニ荒海ト云ル逆臣アリテ国
ヲ奪ヒ民ヲ虐ル朝敵ト成タルハ時之勅命ヲ
奉テ武内宿祢当国ニ下リ給ヒ悉ク其黨ヲ討
第タマノ其神功先代ニ拔擢ヒシカハ国人国
ノ一宮ト推崇シ奉リ今末ノ世ニ至マテ亀金
山ニ臨テ岳タマヘリ武内ノ御父ノ武雄心命
トイヒ御母ヲ坂下姫命トイフニ神共一宮ノ
撰社ト祝ハレテ今ニラハシマス此武雄心命
モ国ノ司トシテ百穀ヲ播シテ稼穡ノ道ヲ知
シノ大ニ国人ヲ撫育シ給ヒシカハ国中在々

処ニニ宮社ヲ造立シテ神ニ祭リ神恩ヲ報謝
シ奉ル珠ニ此神号法美郡ノ村々ニ多シ武雄
ノ社ト云ヘキヲ田舎人ノ訛言ニテ武大明神
トモ武王大明神トモ又ハモウノ神社トモ云
ル也カ、ル丁モ其所ノ里諺ニテ何ヒトツ證
トスル記録アリテ云サレハタシカニハ云レ
サレトモ左モアルヘキ道理ナレハ書シルセ
リ

梅翁山大泉寺

下坂木村ニアリ曹洞宗母木村雲谷山大竜院

末寺開基時代シレズ開山之名ハ遍甫境内山
地寺内三間ニ九間御免地山林アリ

下光本庄六ヶ村

廣木村 村高六十石余

廣木村ハ開野村ヨリ坂本川ノ涉リテ四五町

許東ノ方ニアリ是ハ坂本谷ノ内ニテ別一谷

ノ名ナリ 廣木村ハ下光本庄六ヶ村ノ内ナ

リ 六ヶ村トハ 下光本村 戸島村 馬場

村 塚手村 西分村 廣木村 是ナリ村中

ニ 白山權現 荒神 荒神 石三社アリ馬

場村ノ社家戸板内膳カ支配

塚手村 村高百六十六石余

廣木村ヨリ六七町下ニアリ

村中ニ 牛頭天王 八幡 荒神 荒神 右

四社馬場村戸板内膳カ支配

西分村 村高八十六石余

塚手村ヨリ五町許下ニアリ

村中ニ 荒神 右一社戸板内膳カ支配

馬場村 村高二百三十五石余

村中ニ 武王大明神 荒神 荒神 并才天

八幡 右五社同村神主戸板内膳支配

戸島村 村高百五十石余

馬場村之隣村也

村中 戸島大明神 荒神 荒神 右三社

戸板内膳支配

下光本村 村高八百五十一石余

馬場村之下 戸島村ヨリ六七町アリ

村中 新宮大明神 荒神 荒神 荒神

天神 若宮 右六社 戸板内膳支配

母木保 五ヶ村

常松村 村高三百五十六石余

常松村ハ 下光本村之下ニ在リ 常松村ハ 母木

保五ヶ村 ノ内トリ 五ヶ村トハ 母木村 酒

津村 奥沢見村 富吉村 常松村是也

村中 藏王権現 稻荷 荒神 荒神 天

神 右五社 母木村 社人小寺求馬支配

富吉村 村高百八十三石余

富吉村ハ 常松村ヨリ六七町下ニアリ

村中 牛頭天王 稻荷 松尾 荒神 荒

神 右五社 奥沢見村 板井之末社ニノ母木

村小寺求馬支配

奥沢見村 村高三百九石余

奥沢見村一名ハ溝尾村是ハ母木保五ヶ村之

内ナレバ残ル四ヶ村トハ山ヲ越テ別ニ一ヶ

村ハナレテ奥沢見ノ池之端ニアリ

昔ハ谷合ニ大小ノ池ニヶ所ニアリ故ニ村ノ

名モ奥沢見村小沢見村ト云テニヶ村共ニ気

多郡ノ内ニテアリケルニ何レノ時代ヨリカ

奥沢見村ハ気多郡小沢見村ハ高草郡トナル

古キ国繪圖ヲ見レハニヶ村トモニ池ノ端ニ

テ池ノ下流ハ海エ出タリナ見ユ今ハ小沢見

村ニハ沼沢ナレイツノ時代ニカ池ノ理ノテ

田地トナセルト見ヘタリ今モ地势ヲ見レハ

地形クホニ低クシテ此所ハ埋タル所ト心ヲ

付レハ彷彿トノ昔之池之跡ヲト見ユル也奥

沢見ノ池モ其マワリ羊々ニ築出シテ昔ヨリ

ニ狭クハ成タレバ理残シタルモヨホトナキ

ナル池ニ見ユル也山上ヨリ見レハ絶景ナリ

板井大明神

奥沢見村ニアリ主人ハ板菅大明神トモ板

屋大明神トミ云リ延喜式ニ所載ノ気多郡
五坐ノ中ノ板井神社ト云ルハ是ナリ境内
山地長サ百十間ニ横二十間森ノ中ニ二間
ニ二間半ノ柿菅ノ隨身門アリ竪一間半ニ
横一間ノ鳥居アリ二間半ニ五間草菅ノ神
樂所アリ一間四方ノ鐘樓アリ社領ニ高四
石五斗八升八合折紙水帳下札アリ奉社ノ
境内ニ 稻荷 今宮 若宮 天王 右四
社アリ其外ニ 毗舍門 一社ハ境内ノ外
ニアリ人モ通ハヌ邊上ノ中ノ邊上ナレ共

心ヲ付テ見レハ昔ノナコサトテ自余ノ社地
ニ替リ何トナク殊勝ナルハ式ノ文ニモ載タ
ル吉キ神社ナレハトルヘシ

母水町圖

母水川

馬場田中町

八幡宮

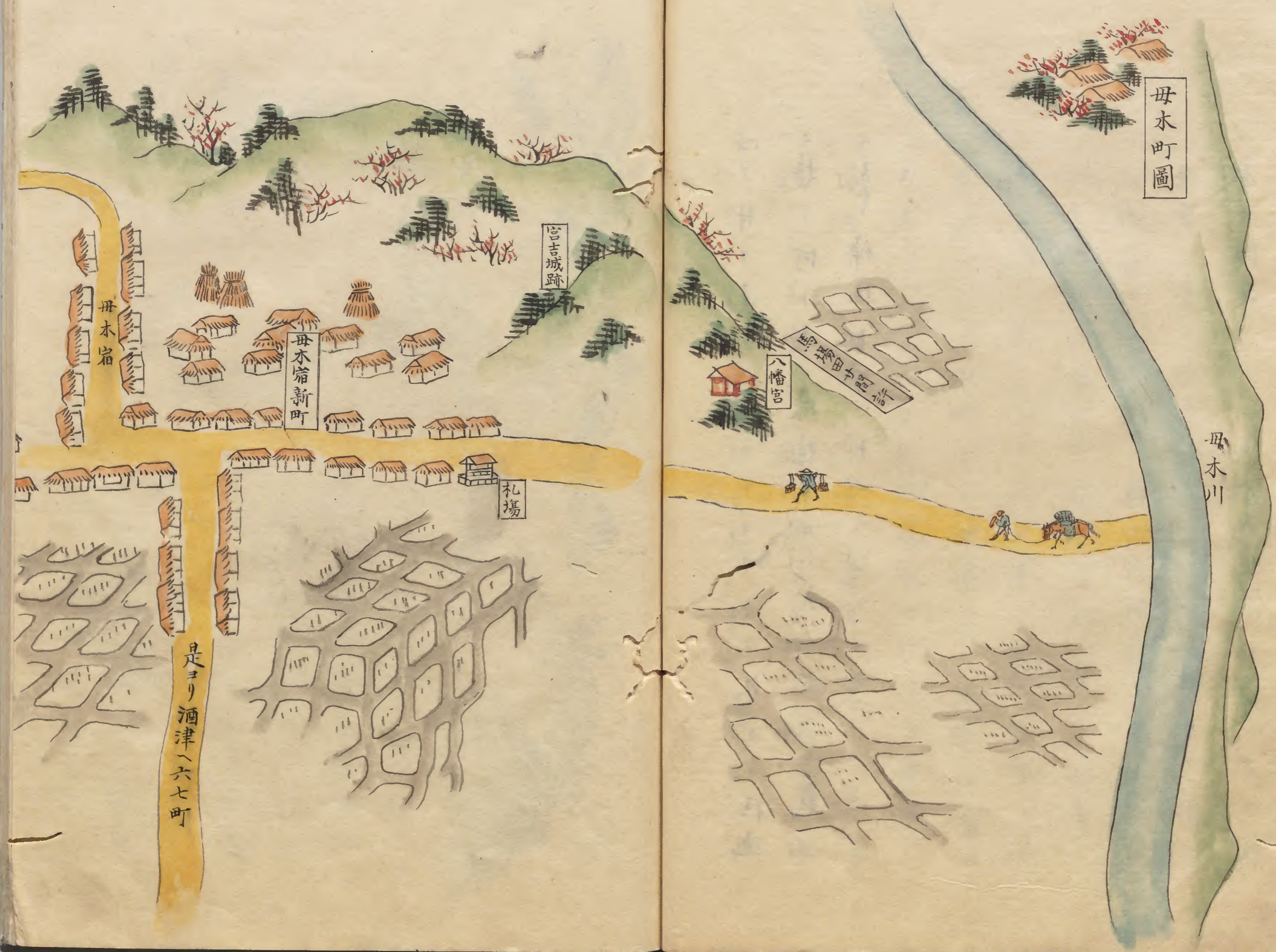
宮古城跡

母水宿新町

母水宿

札場

是ヨリ酒津へ六七町



母木村 村高三百六十三石余
 新町村 村高廿九石余
 母木村ハ奥沢見村ヨリ山ヲ踰テ十七八町ノ
 リ是ハ因州ヨリ伯州ニ通ル街道ニテ鳥取ノ
 城下ヨリ付出シタル駄馬ヲ此村ニテ継カユ
 ル駄舎ナル故ニ昔ヨリ母木宿ト呼来レリ以
 前ハ今ノ本村ハカリニテ母木宿ト云タル也
 今ノ新町村ト称シテ東西ニ通リタル一條ニ
 所立ハ御国替ノ以後ニ出来タル母木ノ枝村
 ナリ新町アリテ今ハ昔ノ母木宿ト呼タル



本村ヲ母木村トイヒ今ノ新所ヲ母木宿トイ
フ母木村ハ街道之序ワキナレハ新所之通り
筋ヲ母木宿ト云テ尤相忘ナリ

母木川

新所之西ノ方ノ村ハツレヨリ二町許ニ南ノ
山奥ヨリ北海エ流レ落ル川之因伯地理志ニ
母木川廣サ十五間深サ一尺五寸可徒涉大水
無渡一日トシルシクレ共真土ナキ沙川ナレ
ハ刹那ノ間ニモ瀬カハル故ニ川ノ廣狹水ノ
浅深一定シテハ云ヘカラス里人ヲ呼テ川幅

何程カ有ント尋クレハ今ハ六カタ五十間許
洪水ノ時ニハ石間余ニモ及フト云リ地理志
ヲ書タル時久ヨリ廣クナリタルニヤ此川ノ
水源ハ倍ニイフ麻野河内ヨリ出来リテ大坂
谷ノ下石村ノ下ヲ横流シテ坂本谷ヲ落ル麻
野ニテハ麻野川トイフ一名ニハ恒河川トモ
云リ地理志ニ麻野川廣サ四間深サ一尺可徒
涉麻野川廣サ三間深七寸可徒涉ト書クレハ
山川ノ名高ク瀬早キ川ナル故ニ深キ処ハ二
尺モ三尺モアリ浅キ処ハ一尺モ有ヘシ徒

テ涉ルヘシト昔夕レ山ノ逆落シテ瀬早
ク漲ル川ナレハ其地ニ住人トゾモ渡リ瀬之
定マリナキ川ナレハ徒涉スルコト成難シ
六月比ノ久シク雨ヲラス水スクナカラシ
ニハ何トカ有ヘキ其外ハ此山川ヲ自由ニ徒
涉スルコト及ハス同シ川筋ニ麻野川ニ名
ニツ書タリ少シ雨フリテ山奥ヨリ水多ク出
ル時ニハ三瀬モ四瀬モアリテ落テ水ス
クナキ時ニハ一瀬ニ成テアリソレモ一
瀬川ニ枝川ニ枝川アリテ瀬ノ数モ何程ト極

メテハ云レス大テイラエトキハ河内村ヨ
リ出此川原ニテ玉川村ノ川上ニテ二瀬ニ成
テ東西ニ別レテ流レ落ル東ノ方ハ麻野川ト
イフ其末ハ坂本谷ニテハ坂本川トイヒ又其
末ハ母木村ノ西ノ方ヲ通り海ニ出ル母木ノ
辺ニテハ母木川ト云フニ瀬ニ別レタル西ニ
方ノ川ヲハ其所玉川村ノアタリヲ通ル故ニ
是ヲハ玉川トイフニ名アル一名ニ麻野川ト
書タレハ是ナランカ玉川モ村ノ上ノ方ニテ
二瀬ニ成テ玉川村ヲ挟ミテ村ノ東西ヲ流レ

テ末ハ又ニ瀬ニ成テ勝見谷ニ落ル勝宿ノ近
所ニテハ勝宿川トイハ湯村濱村ノアタリニ
テハ川ノ名ヲ勝見川トイフ是ヨリ海ニ出ル
地理志ニ勝見川廣サ五間水ノ深サ一尺五寸
可徒涉ト書タレ氏作者ノ見タル寸ノ尺十
ルヘシ母木川ト同シ沙川トレハ廣狹モ淺深
モ一定シテハ云レサル也

一求カ橋

近キ比マテ母木川ニ板橋アリ今ハ絶テナシ
橋ノ横幅七尺ニ長サ三十間ナリキ此川ハ濱

沙ノ上ヲ逆ハシ水ナレハ深サ二尺三尺アリテ
底スミテ川ニ臨テハクヤスク淺瀬ト思ヒテ
モ涉リカ、リテハ足ヲ深ク踏コム殊ニ重荷
ヲ負セタル牛馬ナトハ深ク踏コミテ荷物ヲ
川ノ中ニ打込シナトシテ大キニ往來スル人
ノ難義スルコト多クアリ水スクナキ時ハ渡
ル人ノ膝カシラマテ水ノホル深キ処トイヘ
トモ腰ヨリ上ニハアカラス雨ノリ流キ又ハ
春ノ末雪トクル比ハ南風アタ、カニ雪晴ク
ル日ニモ水カサ多クマサリテ雨中ナラサ

トモ人ノ渡リカヌル時モアリ殊更十一月十
二月正月ノ比ニ深山ヨリ流レ落ル雪水ツノ
クク渡ルモノ、足ヲハ剪カ如ク往來スル人
ノ難ニ多キ川ナリサレトモ昔ヨリ淺瀬ノ川
ナレハ渡し舟モナク橋モカクラレス以前ヨ
リ如斯ニテ相スニ來レリ此ノ母木所ニ住
居シクル一求ト云ケル通心者ト口口諸人ノ
難義スルコトヲ其身ノ苦勞ニシテ歎カハシ
クハ思ヒタレトモ托鉢シテ一日ヲ送ル境界
ナレハ此川ニ橋ヲカクル自カハナシ此ノヲ

母木ノ村人ニカタレハ往來ニ難義スルハ何
レモ其身ニ染テ合点ノナレハイカニモ申
サル、如ク此川ニ橋アレハ諸人ノ苦患ヲ救
フナリト同心ノ者アレ氏貧僧ノ私ニ過ク
ル大造ナル結構ナレハ五人十人ハ尤ト同心
シテモ衆人一同ニ思ヒ合サレハ成カタシ多
キ人ノ中ニハ成ホト、橋ヲ懸タラハ往還ス
ル人ノクノニ成ルナレハ有ナカラ以前ヨ
リ徒涉ニシテ表レル川ナレハ今アラタニ橋
ヲワクサスシテ叶ハヌトイフ義ニテモ有ヘカ

ラストイノ者モアリテ一決セリハ其終ニ
テ年月ヲ経タリケル一求モ何ト云ヘキ様ハ
ナカリケレド他人ト相談シテハ我カ心トヒ
トシキ人ナケレハ事成就スル時節ハ在ルヘ
カラス所詮何トゾ自カニ此橋ヲ渡シテ諸人
ノ苦患ヲ救ハント思フ心ニ堪カ子テマツ寂
初ニ六十六部ノ納経ヲ思ヒ立テ四国ニ出タ
リシカ眞実殊勝ノ志願仏神モアハレト冥慮
ニ感通ヤシタリケン諸方ヲ勸進シテ取アツ
タタル施物公限不相忘ニマウケ得テ母木村

ニ畝リ大形是ホト有テハ橋ヲ造ル料ハ足ヌ
ヘシト母木ノ農長ニ頼ミケレハ農長ヲ始村
中ノ者トモ一求カ善心ヲタフトク思ヒテ此
昔ヲ御奉行所ニ達シテ母木川ト濱村ニ在ル
膝見川トニケ所ニ願ノ如ク橋ヲ作り渡シケ
ル膝見川ハ橋ノ長十七間横幅八尺アリキ猶
此土ニモ不足アリト云テ鳥取倉吉未子其外
村々里々ヲ勸化シケルニ是モ程ナク所願ノ
如ク元来足心石ヲ取アツノ御役所ニ愁訴シ
奉リテ三歩ノ在借米ニ出シケル此利米ヲ母

木村ノ村長ニ渡シ下サレテ永代橋之修復料
ニナシケル気多ノ郡中ニモカホトノ造作ヲ
一人シテタヤスクナス者ハ教人アレハ諸人
ノ雅義ハ目前ニ見トカラモ昔ヨリ誰一人祭
起シテ善ニ勇ム者ナキニ一文不通ノ道心者
ノ身ニ代テモ他ヲ救フコトヲ祭願セシ天ニ十
セシ美質ト云モノカカ、ル仁心ニムマレツ
キヲ限リモナキ諸人ノ苦勞スルヲ助ケント
思フ心ハ其徳ヲ称スルニ余リアリ是ハ元父
三年九月ニ丁也其節世上多ク六十六部ニ出

ル者アリシカハ一求カ如ク過分ニ勸化ヲ得
タル者ハキカス人知ラズ心ノ中ニ眞実ノ道
心アレハ自然ニ谷ノ響キニ応スルカ如ク仏
神ノメクニ有ラノコトシラレタリ全ク僥倖
シタル人カニテ求メウルコトニハアラサルヘ
シ是ハ上下万民ノ世ノ鏡珠ニハ民之父母タ
ラシ御方ハ一求カ祭願心ノ如ク衆ヲ救ヒ給
フコトヲ大願トナサレナハカク不費シテ国
天下ヲモ掌ノ上ニシクヲサセ給フヘキコト
ナランカクアリテ年月ヲ母木ノ里ニ送り

カ念仏三昧ノ所作トシテ居タリシカ自ラ我
カ定業ノ時至レルコトヲ知テ寛延三年庚午
三月十五日午刻トイフニ母木ノ西ノ村端ノ
草菴ニテ身心安祥トノ往生ノ素懐ヲ遂ケル
死スル十四五日以前ヨリヒコロヨシニアル
諸祖家ヲノクリテハ未月十五日午刻ニ
往生スヘシ其日ハ必ス庵室ニ未集シテ我ト
同シク念仏稱名シテ往生浄土ノ结缘シタマ
ヘト暇乞シテ通リケルホトニマコトシカラ
ス思フ者モ其日ハ彼草菴ニツトヒ来リケ

ルニ少シモ約束ノ時刻タカハス其年ノ三月
十五日午刻トイフニ少モナヤノル気色モナ
ク端坐合掌シテ睡レル如クニ息絶ケルトソ
昔熊谷ノ蓮生法師コソ末期ヲ知テ落命シケ
ルト古キ書ニ答キノコシテ世ニタノレナキ
ト云傳フレヒマノアタリカ、ル辺上ニモ
マコトノ志アル者ハ濁悪ノ末ノ世ニモクフ
トキ者モアリケル是ハ無下ニ近キナレハ
其アタリニハ一求ヲ知タル者ノ也此者ハ
生所伯州松崎ノ者ニテ俗名ハ源六ト云テ濱

カヨヒヲ渡世トシテ松崎ヨリ酒津ニ
毎ニ往來シテ年々クルマテ殺生ヲ生業トシ
ケルニ酒津ニテ魚ヲ買テ斫ルニ母木川ヲ渡
ルトテ魚籠ノ中ヲ見レハ買テ斫ル多クノ魚
トモ一ツモトク成ケルコト裁度トモ知カク
シ時ニ源六改悔シテ思フ様仏ニ禁シノ給フ
殺生ヲ何共ソモハス渡世ス多キ中ニ此年ニ
ナルマテ斯ツクナキ業ヲ以テ身命ヲタスカ
ルトハ永ク來世ニ於テ其報ニ有ニコトヲ仏
ニ告知サシメタマフ方便ナランコトヲ思ヒ

トリテ松崎ノ家ニ斫ルトヒトシク倉吉ノ大
蓮寺ト云フ寺ニ是リコレニ住持ヲ頼ニ本結
キリハラヒ法名ヲ一求ト付タリ嗟心ノ因縁
ハ是ニト物語シケルト藤見ノ湯村ニ往スル
紺屋ノ卒兵エト云モノ、咄ナリ元來此卒兵
工ハ城下茶所ノ住人ニテアリシ由カタレリ
世ニハ不思儀ノ了モアルモノ也
一求カ菴ニ

母木新所ヲ一所半許出ハナレテ一新屋ヲ作
リ引コモリ居テ托鉢ノ外ハ世ノ交リヲ絶

一生ヲ終リヌカ、ル道心者アリケルト後ハ
世ノ人々ニモ知セン夕ノニ庵室ノ跡ニテ書
シルシ置ナリ是ハ宝曆二年八月十日ノ大水
ニ流レテ其アト今ハ川原トナリヌ

八幡宮

母木村ノウシロ南ノ方宮吉ノ城山ノ北ニ在
リ境内山地長サ十七間ニ横六間森ノ中ニ社
垣ニユル本社ノ外ニ稻荷早尾明神荒
神荒神若宮右五社共ニ八幡ノ境内ニ
アリ同村小寺求馬カ支配此宮社アル故ニ城

山ノ名ヲ宮吉ト云ル歎ソレナラハ往古ヨリ
久シキ八幡宮ナルヘシ

宮吉城跡

母木村八幡宮ノ山上ニ松林ノ中ニ古城跡ニ
地形アリ是ハ田公新介ト云ル国侍ノ数代居
住シタル城郭ナリ稻場民談ニ曰ク気多郡宮
吉ノ城主田公新介高家ハ始ハ毛利家ノ下知
ニシタカヒ異ナルトモナカリシカ如何ヲモ
ヒケン上方工内通シ麻野秀吉方ノ人々ト云
合ヒ見ツキ合ヘキトノ内意ニテ了ニツク其

意趣トモ世ニ露頭ニクリケレハ吾川元春当
目ニ在陣セラレシ比此由ヲ傳ハ瀨ニクキ田
公カ振舞トリ其義トテハ万支ヲ差置田公ヲ
退治スヘシトテ近所城々ノ人衆ヲ集メ元春
ノ勢彼是六七百之人數ニテ宮吉ノ城ヲ取マ
ワレ三方ヨリ推寄攻タリケル城ノ内ニ人數
ノ多カラス防クヘキ便リナカリシカ共味方
ノ援兵ヲ頼ミツ、城ヲ堅ク守リケル宮吉ノ
城トイフハ逸ナル小岡山ナルニ櫓ヲ搦壁ヲ
塗ヨキ侍ハ多カラス鉄炮ヲ多ク用意シ百姓

トモヲ駈アツノ上下男女二百ハカリニテ菟
リケリサレハ東ノ方高山近ク打掩ヘハ寄手
此上ニ取アカリ遠天ニ銃炮ヲ射込ケレハ城
中以テノ外是ニイタミ皆小指ヲカマヘ働ス
カ、リケレハ寄手次第ニ近ク攻付キ夜昼五
日揉ケレハ拒クヘキ様アラハコソ城主田公
ハ内室子共ク、四五人ヲ引連レ潜ニ城ノウ
シロヨリ夜ニマキレ麻野ノ城エ落来リ亀井
ヲコソ頼ミケル亀井コレヲ痛ハリ馳走ツナ
シテ置ニケルサルホトニ寄手ハ息ヲヒツ

ス責ケルニ城ノ内ニハ大将ノ落ケルヲ
ラス是ヲ禦キケレハ大手エ出テ戦ヒケル内
ニハヤ裏崩レシテ落行ケハ寄手思フ圖ニ推
コミ当ルヲサイハイニ切ステケレハウタル
ハ者カキリナシヤカテ城ヲ割討トリシ頸ト
モ俵五ツニ入山下ニ運ヒ木ノ上ニ梟タリケ
ル元春斜ナラヌ悦ヒヤカテ麻野ノ城ヲモ責
ホロホシナントソイサマレケル秀吉方ノ城
々トモ宮吉ノ落城ヲ聞テ皆胆ヲ寒シテ怖ル
ケル吉川此クニ宮吉ノ城エ取カケラレシニ

付テ祈願之支アリケルニ奉意之如ク調ヒケ
レハ膝宿ノ社エ悦ヒ申クノニ贈リ物アリケ
ル其状之趣ニ曰

今度宮吉之儀頓落去得大利候之段
御神慮迄候仍青銅三百匹進納候弥
御祈念所仰候恐々謹言

二月九日

元春

膝宿神主殿

其後ニ田公新介ハ亀井新十郎ニ扶持セ

麻野ニテ月日ヲ送ラレ抑此田公ト云シ一家
ハ昔ヨリ当国ノ国人ニテ日下部氏ノ侍ナリ
殊ニ国中眷属多クシテ隠レナキ名家代々国
ノ主護代トナリ山名家諸侍ノ上坐タリ殊更
此田公新介ハ近国ニカクレナキ銃炮ノ名人
ニテ田公流ト世ニヨバレ百歩ノ中ニ下針ヲ
置テ百タヒ登テ百名中ル名譽キコヘシ藝ナ
リシカハ亀井コレヲ所望セラレ且暮ニ稽古
際ナカリシカ亀井モ亦秘極ヲ究メ田公ニカ
ハテス^ハ名人トナレリ初メノ程ヨリ此懇望ニ

ヨリ亀井他ニ異ニ奔走セラレシカ此田公ヲ
師トタテ、我カ内ニ置ウヘハ他我ヲ上手ト
セシ今ハ田公カ藝ニ於テ習ヒ受ヘキ了モナ
シ田公カ家ヲ用ヒス我一流ニ元祖トシテ銃
炮ノ名ヲ取ントテ是ヨリ田公ヲ何トナク遠
サケラレ、躰ナレハ田公コレヲ恨ミ顔ニテ
我レ浪人ノ身ト成テ侍ノ義理ヲ以テ合カ扶
持ヲ受シ処ニ今カ、ルヲアシラヒ言語道断
ニ卑怯ナリ此上ハ立退ントテ其用意ヲセラ
レケル七歳ノ男子五歳ノ女子アリケルカ若

ノ披官云 百姓未下某ト云ル者 官告ノ村ニ居
タリシカ 兄弟ツレテ見舞ニ来ル 幸ノコトナリ
トテ 此子細ヲ相談シ 兩人ノ子ヲ此兄弟ニ負
セツ、夫婦草鞋シメ著テ管ノ小笠打カタフ
ケ道行人ニ 縁レツ、マタ夜ヲコメテ 忍ヒ出
テ 其エクサキモ定メトク 足ニマカセテ 夕ト
テル、上海道へトコ、口サシヤウノ、知頭
マテ著タリシニ 比ハ正月ナカバ 過タル折成
ルニ 時レモ南風烈シクフケハ 当国ノ夕ヒト
シテ南ノ風ノアタ、カホルニ 山々ニ積リシ

雪トケテ谷ノ小河モ水マサリ漲リワタルハ
カリ也 知頭ノ在処ヲ半里計リ行スキテ 其ハ
ハ細キ柴橋ヲアヤフニ、ハフニ渡リケルカ
半ワタルハ 風ニハカニ吹来リ 内室風ニ吹ト
ラレ 橋ヨリ下エ墜ラレケルハヤト云ホトコ
ソアレトヤヒシカクヤト云ウキニ 逆巻水ニ
シツミツ、イツクヘカ流レユキニケン 死骸
ヲ求メル様モナシアトヘ立カエリ在所ノ者
ヲ頼メトモヲリシ水カサ多クシテ 何国ヲ
ソコトモ定メナキ 廣キ川ノトナレハ 尋ヌ

キ様モナク泣々又立出テ上方エヨリ上ヲレ
ケル哀レトイフモヲロカナリヤウノ伏見ニ
タトリツ、是ヨリ暇ヲ給テ二人ノ百姓ハ立
敷ル痛ハシヤ田公ハ一人ツレシ妻女ニ離レ
東西モシラヌ嬰兒ヲ旅宿ニトモナヒ懐キ抱
ヘテ泣居タリケレ氏田公鉄炮之名入ナレハ
誠ニ其徳孤ナラスシテ藝名自然ニ顯ハレテ
是ヲ慕フ人多クシテ人々賄多ケレハ是ニテ
世ヲソ渡ラレケル其後時代ウツリ毛利輝元
此由ヲ聞及ハレ不便ナル也トテ昔ノ了ヲ

ハ打スラ、扶持セラレヘキトノ義ニヨリテ
藝州へ引越彼家ノ被官タリシカ其後毛利ノ
家ノ息女ヲ公家徳大寺殿へ嫁セラレシ時此
田公ノ子息其介錯ニ付ラレ又徳大寺ノ家ニ
伺候シテ彼家ノ家頼トナリ今ニ於テ相續セ
リ此ト記セリ此宮吉ノ城之没落ヒシ了年月
ヲシルサス同書之筆記部之膝宿之古證文之
傍書ニ宮吉クツレ寛文十二年マテ九十三年
ニナルトシルス寛文十二年ヨリ九十三年以
前ハ天正八年カ秀吉之鳥取ノ城ヲ責落サレ

シ前年ノ一之陰徳太子記卷六十四ニ曰鳥取
之松ノ城中糧米日々乏シク成テ上下菜色
ノミナルノ由藝州ニ至テ注進セシカハ毛利
三家ノ人ニ如何スヘキト僉議アリケルカ元
春ヨリ家僕一人差遣シ城中ノ様作可被閉届
トテ中村善兵衛ニ命シテ大崎ノ城ニ在ケル
田公備前守高清カ許へ被遣ケリ上トシルセ
リ秀吉天正九年鳥取ノ城ヲ七重八層ニ取圍
ミ兵糧攻ニセラレシ時ノ丁十リ其比当國之
古キ国侍ニ田公新介高家ト云ケル者ハ気多

郡大坂谷宮吉ノ城主タルコト上ニ述ルカ如
シ又同郡大崎ノ城ニハ寛王佐守ト云ル者在
住シケルカ王佐守ハ無ニノ毛利方ナリ田公
新介ハ秀吉ニ降参シヌレハ麻野ノ亀井ト一
手ニ成テ大崎ノ王佐守トハ日々夜ニ透間ヲ
伺ニテ合戦ニ隙トカリシ也陰徳太子記ニ大
崎之田公備前守高清ト書タルハ宮吉ト大崎
ト近所ナル故ニ閑傳ノアヤマリニテモアル
カ但シ田公新介ト同名備前守ト一家之別
ニテ敵味方ト成テ備前守ハ寛カ大崎へ一所

ニ篁リ居タル者カ何レニシテモ大崎ハ昔ヨ
リ寛カ城主タルニ相違ナシ陰徳太平記ニ大
崎ノ城ニ在ケル田公備前守高清カ許へ被遣
ケリト書タレハ何トヤラシ田公カ大崎ノ城
主ノ如クニ開ユル故ニ其コトハリヲ書ワケ
テ知シム

馬場田

今母木ノ八幡宮之山下西ノ方二十間許ニ
田地之名ナリ此所宮吉ノ城ノ在ケル時城
主家中ノ侍ノ馬ヲ責タル馬場之跡ナリ

吉川跡

母木村ノウシ口南ノ方村ト程千カキ所ニ東
ヨリ西ニ流ル小河ヲ吉川トイエリ昔ハ坂
本川此筋ヲ横キリテ流レテ母木川ト成テ海
ニ出タリシニヤ此川筋ヲ埋テ新田トナシ母
木村ノ西ノ方ニ川筋ヲ付換テ母木川ト云ル
ニヤ此新田ニ付タル母木ノ新所ノ村高ナル
カ重ヲ尋ヌヘシ

雲谷山大龍院

母木村ノウシ口南ノ方ノ山下ニアリ曹洞宗

備中国船木村ノ洞松寺之末寺中興ノ洞山ノ
名ハ長通時代シレハ寺領高四石五斗四升御
下札アリ境内山地十九間半四方御免地山林
アリ

予四十年許以前ニ此地ニ来遊シタリシニ
村老ノ吐ニ云タルハ大坂谷ニアル高江之慶
樹院ト云ル寺ハ上古母木ノ大竜院ヨリ別レ
出タル寺ナリト云傳ノ母木ノ大竜院ヲ其時
マテハ洞山大竜院ト云タリシニ寺ヲ別テ
ニケ寺トスル時ニ山号ヲ高江ノ寺ニ付テ今

ニ雁洞山慶樹院トイフ母木ノ寺ハ其時ヨリ
山号ヲ雲谷山ト云リ上古此寺何宗ニテカ有
テシ其時ハ長尾ノ出崎ノ山上ニアリ今ニ其
寺アリシ跡ヲハ寺屋敷トイフ今ニ昔ノ寺屋
敷ノ標ニ老タル一樹ノ松アリ上古何レノ時
代ニテカ有ケン道德堅固ノ僧アリ人倫絶タ
ル処ヲ好ンテ此処ニ遊レ居テオコナヒスマ
シテヲハシケルニ時ニ此海中ニ悪竜スミケ
ルカ此人ノ洞山山上ニ居レルヲ知テ来テ
此道人ノ噉食セントス此人毒蛇ノ来ルコト

ヲ知テ身心動シクマハス与フルニ法喜食ヲ
以テス此法味ヲ得テ害心ヲ忘レ日々ニ来リ
テ其教化ヲ聴聞シケルカ終ニ畜身ヲ得脱シ
テ現身ニ仏果ヲ頓證シケリ今ニ此所ニ雌竜
之通りタル跡ハ黒ク雄竜ノ通りタル跡ハ赤
ク其長サ數十丈石壁ニ残りテアリ時ノ人此
僧ノ道德ヲ慕フテ枉テ市中ニ招待シテ舟木
村ノ片ホトリノ中ニ一宇ヲ葺創シテ居シ
ム其寺ノ号ヲ洞山大竜院ト云ケル後ニ此
寺ヨリ別レテ一寺ヲ高江村ニ建立シケル本

寺ノ号ヲカタトリテ此寺ヲ雁洞山慶樹院
ト号ス慶相之号モ寺屋敷ノ喬木ニ夕ヨリテ
寺号トスルニヤト語レリ是夕シカニ記得シ
テ今モ忘レス後ニ此支ヲニケ寺ノ住持ニ尋
ヌルニ寺ニ此イヒツクヘナク寺ニ付タル祖
那ノ中ニモ一人モ閑傳ハタル者ナシ大竜院
ハ舟木ノ洞松寺ノ末寺慶樹院ハ当国謀傳寺
ノ末寺即千讓傳寺ノ隠居所ニスルトテ新建
シタル新刹ニテ余リ廿代モ多カラス同シ禅
宗十カラ本寺各別ナレハ此説信シカタシ

洞大竜之来歴ハ何クル因縁アリテ山号寺号
ニ用ユルニヤ子細シラメト答クリカク聞テ
ハ無誓ノ妄誕カト思ハル、ナレトモ、洞大
山ノ名エノ現前ニアリ即チ其所ニ大竜ニ
速モアリ何ノ所以ナク偶然トメ、洞大竜之
文字ヲ寺ノ号トセンヤ又別ニ、洞大竜ト名
ヲ付クル、ハ此子細ナリト云、ナレトモ、證拠
ヲ以テ言ヒラク時ニハ里老ノ昔咄ハ立カク
シヤレトモ寺ニモ祖那ニモ何タル謂レニテ
、洞大竜トイフト、イヘル、ナレトモ、知タル者ナシ

察スルニ、大龍院ヨリ慶樹院ニ別レ出タリト
云ル、ナレトモ、今ノ寺ノ、ナレトモ、有ヘカラス、上古ノ
寺ハ中古ノ乱世ニ退轉シテ、中間何百年カ経
テ来リツテ、ナレトモ、昔ノ寺ノ名ハ野山ノ名ト
成テスタラス、今ニ寺屋鋪ナト云カ、如シ此類
例ハ世ニ多ク在リ、既ニ數百年ニ過テ、以
後ニ昔ノ寺アリシ處ニ新刹ヲ建立スル時ニ
、ナレトモ、昔ヨリ此地ニ寺ノ号アリトテ、新刹
ノ寺号ニ用ユル例多シ、故ニ寺号ヲ聞テハ、上
古ノ寺ニテ、今ノ寺ハ近代ノ新寺ナルコト、少

クアリ例レハ鹿野云華嚴寺ノコトシ寺号ヲ
以テ見レハ山名時代ニ回龍山華嚴寺トイフ
ニ相違ナシ寺ノ中與フイハ今ノ雲竜寺ノ
住持嶺梅カ造作セル新刹ニテ昔之寺ハ華嚴
宗今テノ寺ハ曹洞宗ナルカ如シ里諺ニ大龍院
ヨリ別
カ未タ還轉セサリシ者ノ寺ノ咄ナラシ後世
數百年モ曆ヲ引起シタル新寺ノ住持新寺ニ
付タル檀那ハ聞ミ及ハサルトイフニ今ク相
違モ有マシキ也

